

皆さんこんにちは。

ただいまご紹介いただきました AuB 株式会社代表取締役の鈴木啓太と申します。  
すぐくハードルを上げて、今年一番のイベントということですよ。

台風で延期になって、この機会がなくなってしまうのかなと思いましたが、この機会にですねお話しできること大変うれしく思います。

またスポーツがまちづくりのセンターピンになるっていう、これはですねスポーツ関係者の方々今日たくさんいらっしゃると思うんですけども、そりゃそうだと思うんですけども、ただそれをですね、私視点でどのように見ているのかということをお話させていただきます。

ここに書いてあるようにですね、100 年時代、ここに行くまでにちょっと私の自己紹介したいなと。

2000 年から 2015 年シーズンまでですね、私 16 年浦和レッズでプレーさせていただきました。本当にですね、浦和レッズというのは、私にとってのふるさとでありますし、この埼玉という地も私にとっては第 2 の故郷だという風に思っています。この街が元気になるためにどうしたらいいのかということですよ、私、AuB という会社を立ち上げました。

もちろんこの街ではなくてですねそれが大きく広がっていくという想像ももちろん思っております。実際にですね皆さんにちょっと一つ聞きたいなというところがあるんですけど、皆さん、限られた時間の使い方、どう考えてらっしゃいますか。

今どう使われてるかっていうこともそうですし、これからどういうふうに使っていききたいかというお話です。

もちろん個人の趣味であったり、勉強、学びみたいなのところにも時間をかけたいなとか、あと、仕事ね、当然そこで稼いでいくということもありますし、世の中のために貢献したいという思いもあるでしょう。

ただそれだけでは、近くでサポートしてくれている家族、仲間を幸せにできないっていうこともあるんじゃないかなと思います。

そして健康、またですね、美容なんかもね、気を遣っている方いらっしゃると思うんですけど、これを総合してライフワークバランスというふうに言いますよね。

きっとですね、こういった配分、人それぞれ、そしてその時々々の時間軸によって変わると思うんですよ。

ただ、人生 100 年時代、なぜ 100 年時代なのかということですよ、こちらにはヘルスケアであったりスポーツ業界にいらっしゃる方たくさんいると思うので、ご存知の方もいらっしゃいますけれども、大体 2007 年に生まれた子供たちが 100 歳まで生きる確率、どのぐらいか、皆さんご存知でしょうか。今現在ですけども、大体 80 歳前後と言われますね。平均寿命。それが 2007 年に生まれた子供たちというのは、大体 50%は 100 歳超えると言われてます、本当だろうかと思えますけれどもそういうふうに使われています。そんな世の中になってきています。

それをですね、この時間の割り振り、皆さんが考える、大体 80 歳、85 歳。

長く生きて 90 歳かなっていうところがですね、大きく変わるんですよ。

さあ、従来型の時間の使い方ですね、教育 18 から 22 歳ぐらいまでの時間を教育、そして働く時代というものが大体そこからですね 65 歳までといわれてます。

それがこれから世の中は 70 歳 80 歳までになりますよね。

そして引退を迎えて、約 10 年ぐらいを自分の好きなことをするというふうに、そういった人生設計があった。これ大前提ですね。

そしてそのように、良い大学に入って、企業に勤めて、一つの企業で終身雇用で活躍して、そして引退する。ここから先ですね人生 100 年時代ということで大きく変わると言われています。

どのようになるのかというです、教育期から、会社に勤めます、サラリーマンであれば会社になりますし、そして今、学び直し、リカレント教育時代というふうに言われていますけれども、そしてまたキャリアを模索しながら、チェンジしていき、そして、これから先は組織にとらわれない、そういった人生を歩んでいくというふうに言われていますね。そして引退を迎える。

もう自分たちの時代は大丈夫だ。と思っている方いらっしゃるかもしれませんが、もしかすると、これから先、いろいろなライフワークバランスを考えなければいけないというふうに考えてる人たちもいるのではないかと。ちょうどこれがですねシフトする時代だというふうに言われていますね。

こういった前提で物事を考えていくと、スポーツというものがものすごく大事だというふうに考えられるんじゃないかなと思うんですね。

なぜなら、この時間軸がですね、大体ここが昔で言うところですね人生 75 歳とかですね、70 歳なんて言われた時代もありました。そういうふうな仕組みで社会が作られていたのが、ここが 100 歳とされています。そして健康寿命延ばす。これも一つスポーツの関係ですよ。100 歳まで、そして健康寿命ということ考えた時に、できる限り働けるような体づくりってこのをさせていただければいいのではないかと。

もちろん学ぶことであったり、まちづくりの社会の仕組みであったり、そして雇用形態であったり、そういったことで色々変わっていきますけれども、根本にあるものは健康です。逆に健康じゃなかったら 100 年生きなくていいやという方はいらっしゃるかもしれないです。

ただ、この世の中を考えたときに、今のこの日本を考えたときに、これから超高齢化社会が待っている。そして、人材不足という話もあります、生産性の問題、こういった流れの中で、間違いなく健康、そしてそこに紐づいてくるスポーツというものが大きな力を果たさなければならぬ。そういう時代が来ると私は考えています。

そしてですね、AuB という会社の説明をさせていただきますけれども、私サッカー選手やっていた時に、最後の年にですねこの AuB という会社立ち上げました。

何で立ち上げたのかということなんですけれども、決して私は浦和レッズに残りたくなかったわけではないんですね。

浦和というまちが好きで、浦和レッズのサポーターが大好きでしたし、そしてサッカーというものを愛しています。

このサッカーというものがどのようにして発展していったらいいんだろうなということを考えていく。

その中でですね、私 2004 年 5 年 6 年 7 年 8 年とこの時期、ものすごくいい思い出として残ってるんですね。

その当時ですね、浦和レッズ平均観客動員数、一試合あたり 4 万 5000 人だった。

ものすごい数字だなと思いますけど、その時はごく当たり前だと思ってました。

しかしですね、今3万5000人くらい。

当時ですね私が2012年、3年の時ですかね、ファンサポーターとある場所で、話す機会があって、「最近スタジアムに来てくれないじゃないですか。どうしたんですか」とお話ししたんですよ。

魅力がないからだよとか、勝たないからだよって言われるかなと思ったんです。

違ったんです。「啓太さん、Jリーグ始まって何年経ってると思ってんだ。20年経ってるんだ。Jリーグが始まった時に40歳だった自分は、今もう60を超えてる。だから土日スタジアムに行くのが大変なんだ。疲れちゃうんだよね。シャトルバスに乗っていくのも大変だし、埼玉スタジアムはアクセス悪いな。」と。

浦和レッズの悪口言ってるわけじゃないですよ。

今は街も発展してきて、スタジアムの周りにコミュニティーができて、そんなような空気感を感じますけれども、当時そういうふうには言われました。

そうか、その視点って全くなかったんですよ。

人間は元気じゃないと、好きなことできないんだって思ったんですね。

そこからです。

私、それが2012年ぐらいだったと思うんですけども、13年14年15年、僕プレーするんですよ。

その時にですね、母親、父親、静岡から毎試合来るんです。

でも、いつもご飯を一緒に食べてから帰るのに、最近は試合が終わったらすぐ帰るようになったんです。

なぜか。

もう大変なんだと。

我々は年だからすぐ帰りたいっていうんですね。いやご飯食べてから帰ろうよ、勝った時ぐらいと思うんですけどそうじゃないんですね。

やっぱそうやって人間って、自分の好きなことだったり、楽しいことだったりっていうのも、自分の体と相談するようになるんですね。

これはものすごく重要だなと思ったときに、これは何かしらスポーツ×何かができるんじゃないかなって思ったんですね。

私は幼少の頃から母親の影響で、人間は腸が一番大事だよっていうふうには言われて育ってきました。

ある研究者と話したときに、特徴的な被験者で調べると大きな発見に繋がると言われた。僕の周りにいっぱいアスリートいるな。よし、アスリートのうんこ集めて、そして腸内細菌を研究して、そしてこれが一般の方々、そしてファンサポーターの健康に貢献できたら、こんなすばらしいことはない。

そう思って、AuBという会社を立ち上げました。

すごくですね、アスリートからアカデミックの世界に行くっていうのは、「大丈夫か？だまされてないか？」ってたくさん言われたんですよ。

だけど私からすると、点と点が線でつながってるんですね。

なぜなら、間違いなく、健康とスポーツはリンクしてるし、スポーツ×ヘルスケア、これから繋がってくる。なんでもそうなんですよ。

スポーツ×栄養、スポーツ×何々っていうのは、どこでも相性がいいんです。

だからこそ、私はセンターピンなりうるというふうには考えている。

そしてですね、すべての人をベストコンディションにということ。アスリートはこれまでエンターテインメントの価値がメインでした。もちろん育成とかそういったところありますけれども、でも基本的にはエンタメですよね。エンタメの価値だけではもう勝てない世界が来ると思うんですね。スマートフォンとか。

だからこそ、このスポーツ×何々、これを探っていくことがものすごく重要です。

スポーツのピンを倒すことによって、他のピンが倒れていく。

日本の文化、祭りごと、これ皆さん大好きなんですね。沖縄で、小野伸二さんと中村俊介さんが横浜対琉球で試合やった時に、1万3000人入ったってものすごく喜んでたんですよ。

ただその翌日、沖縄祭り3万人集まった。

おいおいと。

だけれども、これ、似てるものなんですね。

祭り、日本人大好きですしそこに人が集まるんですよ。

だからこれスポーツともものすごく相性いいなと。

それが文化になっていくことによっていろんなビジネスが生まれてくる。

私はそういったことで、腸を整えるというところから、人々の健康に貢献して、そしていつまでも元気にスタジアム通ってもらいたい。

自分の好きなことにチャレンジしてもらいたい。

少し私の会社の説明しますけれども、研究チーム立ち上げて、4年間研究してきました。そして現在は9期目を迎えています。

AuBの強みというところですけども、アスリートの腸内細菌のデータ私持ってます。これ多分世界で一番持ってる。

45競技、1000人以上、2200検体以上ということで、これだけのアスリートにですね、サポートといいますか、検体を提供していただいています。

これはですね、どういうことかっていうと、自分のために頑張ったんですねアスリートは。自分のため。ワールドカップに出たい、日本代表として活躍したい、オリンピックに出たい、お金を稼ぎたい。これがですね、自分のためにやってきたこの大切なデータが、ファンサポーターのためになり、そして次世代のアスリートのためといった思い。

もちろん自分のパフォーマンスアップにもつながりますけど、提供いただいています。

では一般の方とアスリート、何が違うのかっていうことなんですけれども、多様性が高い。そして酪酸菌という菌が2倍だということなんです。これですね話していると時間がないので飛ばしますね。これすごく大事な部分なんですけど。

ただ、アスリートの腸内細菌はとても優秀だということ。体に投資してますし、そういったことのデータを証明してきました。

そして私たち研究と事業というものを行き来してですね、それを社会実装させていく。

スポーツチームもそういうような形でですね、最終的にエンターテインメントだけではなくて、いろいろなところとのつながりから新しいものを生み出す、これイノベーションだと考えていますけど、それを社会実装することが大事だと思います。

私たち、腸活メソッドというもの作っております、研究と社会実装というものを、アカデミックとコンシューマ向けっていうのは非常に遠いんですけど、その間に入っていただければなと思っています。

こちら、もう時間がないので、飛ばしますけれども、腸内環境、最近すごく叫ばれています。

ただ、なかなか目に見えないっていうものですので、これをですねさらに私たち啓蒙していきたいなと思っていますし、逆にアスリート、そしてスポーツチーム、地域の方々に対して、一緒にこういった啓蒙活動というものもできたらなと私たち考えております。

本日、お配りしている flow というもの、食物繊維がたくさん入ってるものですね、皆さんの腸内環境に非常に良いです。子供用のものですね開発してますので、良ければ私たちのホームページを見ていただければと思います。

また私たち商品だけ、プロダクトだけを開発販売しているわけではなく、お金にはほとんどならないんですけどイベントの開催であったり、セミナー打たせていただいているので、何か腸内細菌のことでお話しさせていただく機会がありました。皆さんにとってのステーキホルダーの方、ファンサポーターの方とのコミュニティでもと思っています。

スポーツがまちづくりのセンターピンになるということ、お話しさせていただいたんですけど、間違いなくですね、このスポーツの持っている力っていうのはまだ日本で過小評価されてると僕思ってます。

なぜならワールドカップであったり、オリンピックであったり、あれだけ人々熱狂させることができるんですね。

これが今のこれまでの教育においては、それだけやればいい、その世界だけでっていうふうなものだったんですけど、これはぜひですね、いろいろな形で、イノベーションというのが起きていくと思います。

間違いなくスポーツが街のセンターピンになってそして日頃の話題の中心になっていく。そんなようなスポーツ文化というものに、私自身も貢献できたらなと思っていますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。